

製品の代金として 約束手形を受け取った場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



新人さん：営業さんが「得意先から商品代金として手形を受け取ったよ」と手形を持ってきたんですが、金庫にしまっておけばいいですか？

先輩：ああ、金額と支払期日はいつになっている？

新人さん：はい、100万円で再来月の20日です。

先輩：取引銀行に取立てを依頼しないといけないから、忘れないようにメモしておいてね。

新人さん：はい、わかりました。

○解説

「受取手形」とは、通常の営業取引によって、得意先などが支払い手段として振り出した手形を受け取って保有している場合に、その手形債権を処理する際の勘定科目です。

代金を支払う人と手形を振り出す人が同じ約束手形と、支払う人と手形を振り出す人が異なる為替手形があ

りますが、どちらも「受取手形」として処理します。

手形は、銀行に当座預金口座を開設し、手形帳の交付を受けて振り出します。手形には支払期日があって、振出人の指定した期日まで決済されません。ただし、手形に裏書きをすることによって、支払手段とすることもできます（裏書手形）。また、支払期日前に金融機関に割引きに出すと、割引日から支払期日までの利息相当額を割引料として差し引いた残額を当座預金口座に入金してもらうこともできます（割引手形）。

手形の振出人に決済資金がなく、手形の決済ができないと、取立依頼をした受取人に手形が返却されます（不渡手形）。手形が不渡りになった場合、振出人等に手形金額の回収を図るなど債権を保全する手続きをします。

通常の営業取引以外の取引（固定資産の売却など）から受け取った手形は、「営業外支払手形」等の勘定科目で処理し、「受取手形」とは区別します。 ●

ケース1 約束手形を受け取った場合

得意先A社に製品を納入し、代金100万円（税別）をA社振り出しの約束手形で受け取った。

【借方】	受取手形	1,100,000	／	【貸方】	売上高	1,000,000
					仮受消費税等	100,000

ケース2 手形の取立て依頼をした場合

ケース1の得意先A社振り出しの約束手形の支払いを受けるために、取引銀行に取立てを依頼した。

仕訳なし

ケース3 支払期日に決済された場合

ケース2で取立てを依頼した手形が決済されて、当座預金に入金された。

【借方】	当座預金	1,100,000	／	【貸方】	受取手形	1,100,000
-------------	------	-----------	---	-------------	------	-----------